

全国学力・学習状況調査の京都市の結果について〈概要〉

(平成 25 年 4 月 24 日実施 小学校 6 年生・中学校 3 年生参加)

小学生は、国語、算数ともに全国平均を上回っています。中学生においても、概ね全国平均を上回っています。特に、活用力をみるB問題について、小・中学生とも良好な結果となりました。調査が始まった平成19年度と比べると、小・中とも対全国指数（国の平均正答率を100としたときの京都市の平均正答率の割合を示す指数）を着実に伸ばしてきました。各学校やご家庭での指導・支援の成果が表れています。

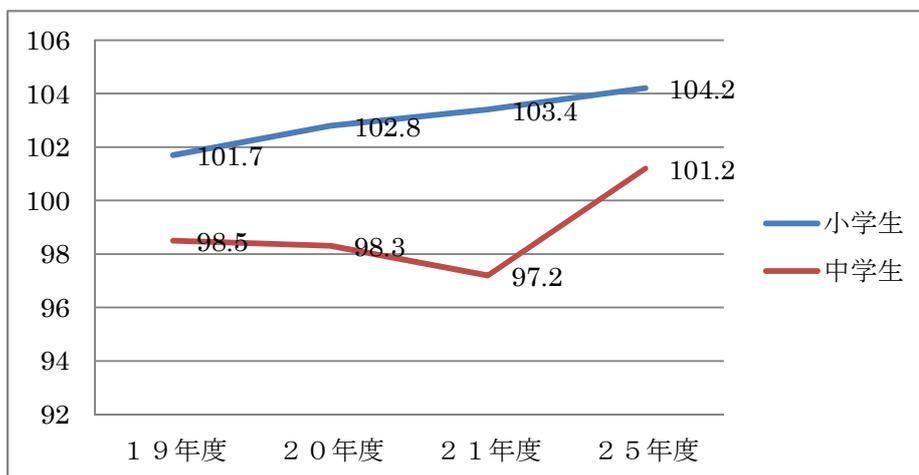
◆小学校 平均正答率一覧

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	全体
全国	62.7	49.4	77.2	58.4	61.9
京都市	65.9	52.7	78.2	61.4	64.6

◆中学校 平均正答率一覧

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	全体
全国	76.4	67.4	63.7	41.5	62.3
京都市	76.3	68.7	63.8	43.3	63.0

対全国指数の経年変化：全体（全国平均を100とする）



保護者の皆様、市民の皆様へ

平成25年度の結果は、総合的にみると、これまでの調査と比較して着実に伸びてきています。子どもたちの学習に向かう意識や態度も向上し、最後まであきらめず、粘り強く取り組んだ結果だといえます。全国調査では、教科の学力と合わせて、家庭での過ごし方や学習時間などの調査も行われてきました。その結果をみると、学力と大きく相関関係がある「家庭学習の時間」、「規範意識・自尊感情の育成」、「携帯電話・ゲームの利用」などの状況にもこれまでと比較して改善が見られます。ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや学校の取組に対する理解や協力の結果が表れているものと考えられます。

全国調査は、結果分析と改善によって子どもたちの学習状況をより良くしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているわけではなく、また、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な取組の積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が基盤となります。

京都市では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という理念の下、市民ぐるみ・地域ぐるみの開かれた学校づくりを推進する中で、予習・復習の学習サイクルを身に付けるため独自で実施している京都市学習支援プログラム（小学校：ジョイントプログラム、中学校：学習確認プログラム）や全小中学校で進める小中一貫教育、土曜学習の実施など、さまざまな取組を展開しています。学校・家庭・地域・行政が、共に連携し、多くの市民の皆様のご協力のもとで、社会の宝である子どもたちを健やかに育む取組が有機的につながった結果が今回の調査にも着実に表れています。

今後とも、子どもたちの学習習慣の定着や学習意欲の向上を支援し、より充実した取組を進めてまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

(本件に関する問い合わせ)

京都市教育委員会学校指導課

電話 (075) 222 - 3801